

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL : 03-3519-5181 FAX : 03-3597-5171 メール : jaera-homepage@elv.or.jp

URL : http://www.elv.or.jp/

## ■特別インタビュー■

# 消費者団体の方に聞く(後編)

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長 鬼沢 良子 様

.....

前号に引き続き、消費者団体の代表で産構審・中環審合同会議に委員として参加されるなど、さまざまな方面で活躍されている『NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット』事務局長、鬼沢良子様へのインタビューを掲載します。



[写真：鬼沢 良子 事務局長]

〔※以下、インタビュー本文は敬称略とさせていただきます〕

.....

## 消費者の立場からみた自動車リサイクル、その立場としての役割

—— 今、自動車はどんどん技術が進化していて、素材もどんどん変わってきています。鉄からアルミ、それからカーボン。で、カーボンになると処理の仕方がまったくないという……。

鬼沢 それで本当にいいのかということですよ。今おっしゃったカーボンのように現状きちんと処理できてないもの、将来を見据えたら今の内からちゃんと研究開発をしなきゃいけないものもたくさんあるでしょうし。そういった部分で、将来に向けたリサイクル料金の活用方法がもっとあるんじゃないかと思えますね。

—— そうですね。

鬼沢 ありがたいことに、業界ということを負ってないから、言えるんですよ。業界を負ってきた委員の方は、その責任があるから、「こうあるべき」という一消費者の理想論ってわけにいかないですよ。でも、だからこそ、私は、ちゃんとそういうことを言わなきゃいけないんだと思うんですよ。消費者の立場として、何の利害もなく、日本の社会にとって何がいいかということ。

—— 確かに、携わってるがゆえに言えないこともありますよね。

鬼沢 委員の方は皆さんそれぞれの立場で選ばれてる委員だから、ご自分はどう思ってても立場上言わざるを得ないこともあるでしょうし。そういうことを考えたら私は一番自由に言える立場だと、思うんですよ。

—— それと、議論が専門的すぎる方向に行ってしまうのを引き戻すという意味でも非常に重要な立場ですね。

## 目次

巻頭言 ..... 1

### トピックス

特別インタビュー(後編) ..... 1-2

安全作業指導員研修会 ..... 3

産構審・中環審合同会議 ..... 3

規格化への取り組み ..... 4

ブロック会議・各団体総会 ..... 5

鉄スクラップ最新情報 ..... 6

行事予定・お知らせ ..... 7

編集後記 ..... 7

## 巻頭言

5月18日に行われた産構審を傍聴してきました。2時間という短い時間で、膨大な量の資料を読み上げるため、皆さんとても早口で話されます。

最も印象に残ったのは、「**質の高いリサイクルを確実に行う優良事業者に優先的に引き渡していくことも重要**」の一文です(3ページ下部の記事参照)。新しい情報・技術を積極的に取り入れていかないと、市場から取り残されていくことでしょう。

担当している会員さんは大変かと思いますが、ELV機構が主催している自動車リサイクル士制度の講習会が、国の求めるレベルまで進化していくことを期待しています。

(広報部会 小宮山 敬仁)

鬼沢 そうなんです。専門的な議論をしていても、それを社会にどうやって伝えていくのかということと考えたら、全然知識のない方にもある程度わかるように話してもらわないと困ることじゃないですか。

社会にどうやって発信していくか、また、一消費者がこの課題を知るためにはどうすればいいかっていうところ。私が発言できるところってきっとそこだろうなと思うんですよ。やはり、専門家だけで話し合っていればいいという問題ではないですよ。

——なるほど。確かにそうですね。

鬼沢 本当の問題はその専門家の方じゃないとわからないのかもしれないんですけども、じゃあ、消費者が何も知らなくていいかという、そうじゃないから。だから、私のような立場は、消費者がもっと関心を持つためにはどうすればいいかといった視点がありますよね。それを考えると、審議会のような場には、やはりいろんな立場の方がいないといけないんだと思うんですよ。

——そうですね、消費者の方にはみえない部分、そういった目にさらされてない部分っていうのがいっぱいありますからね。それが見えるようになってきて、初めて市民が動き出すという、それを促す役割でもありますよね。

## 自動車リサイクル業界に期待すること

——我々ELV機構では、資源循環の促進に向けた活動を継続的に実施して、平成26年度にはプラスチックの回収事業を行ったんですよ。その結果、自動車から回収したPP（ポリプロピレン）は非常に高品位であることがわかりました。そういうこともあまり消費者の方には知られていないですよ。

鬼沢 そうですね。昨年行ったフランスでは、プラスチックのリサイクルが非常に進んでいました。自動車のプラスチックと家電のプラスチックが100%リサイクルできていて100%再生素材で作った新しい自動車部品ができていたんですよ。「日本も見に来てよ」とおっしゃっていました。でも向こうはかなりの特許を取っていたから、「用があったら言ってください、売りますから」って言っていましたがね（笑）。だから日本でもそういったリサイクルの研究をもっともってしていく必要があると思うんですよ。

鬼沢 メーカーさんは、素材を薄くしたり、強化した素材を使ったりって部分の研究はされるかもしれないけど、まだそこまで、リサイクルに特化した研究はされていないと思うんですよね。最終的に廃車になった車を扱ってる方のほうが「これをじゃあどうやって活かそうか」という研究ができると思うんです。

——ELV機構も含めて、今後、自動車リサイクル業界に期待することというのは、そういった部分ですか？

鬼沢 はい、本当に期待しています。それと、なかなかこういう研究が一般ユーザーにはわからないので、できたら「こういった取り組みもしているんですよ」っていうことをしっかりお知らせいただければ、その取り組みを通じてできた再生品の価値は伝わると思います。今、なかなかそこが伝わりきれてないと思うんですよ。研究などの途中過程がすっぽ抜けて、いきなり「リサイクルでできた製品です」と言われても、消費者にはその価値がきっと伝わりきらないんだと思うんです。だから、「今こういう研究をしていて、将来こういうことを目指している」といった情報から伝えていただくと、それが達成できたときの価値ってすごく伝わるんじゃないでしょうか。（おわり）



消費者団体の代表として、さまざまなりサイクルに関する委員会やシンポジウムなどに参加されている鬼沢様。そうした業界の外にいる視点から語られるお話には、自動車リサイクル業界の次につながるヒントがいくつも隠されていたように思います。

当日、お忙しい中でご都合をつけていただいたにもかかわらず（インタビュー後、すぐにシンポジウムにご参加されていました）鬼沢様は、終始にこやかにインタビューに応じてくださいました。

貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

# 研修会が開催され 全国から安全作業指導員が集結

当日、研修会に参加した安全作業指導員の方よりご寄稿いただきました！



ご寄稿いただいた方  
住ノ江金属（佐賀県）  
安全作業指導員 久原 康己 様

皆さん、こんにちは。九州ブロックの安全作業指導員を務めている久原です。安全作業指導員といってもあまりご存知ない方もいらっしゃるかと思いますが、新規のエアバッグ車上作動処理の契約事業所に訪問し、安全作業や適正処理などが円滑にできるように指導を行います。今回、そのような縁で記事を書かせていただきました。

先日の5月17日に、この安全作業指導員の研修会が東京で行われ、全国の安全作業指導員が集まりました。

基本の復習や自再協による監査の結果報告などについて講習があり、それから、3チームに分かれて実際の指導先での事例を想定してのロールプレイングを行い、指導先の社長や作業員を見立てて実際の指導方法を学びました。チームごとのやり取りの中で、どうすれば安全作業や適正処理について指導先の方々に理解してもらえるような指導ができるか熱い意見が交わされました。

当日は、全国の安全作業指導員さんから本当に様々な意見が出てきて、とても楽しく、また、為になる講習を受けることができました。この研修会を通じて、私も指導先にとって有意義な指導を行えるようスキルを上げる必要があると感じました。これからも微力ですが、自動車リサイクル業に貢献していければと思います。

## 産構審・中環審 第40回 合同会議が開催

平成27年5月18日、産構審・中環審 第40回 合同会議が開催されました。今回の議題は、「自動車リサイクル制度の評価・検討に当たっての論点整理」です。その中で解体業界と関連性の強い論点をご紹介します。

- **解体業者と自動車製造業者のコミュニケーション**により、「リユース拡大・リサイクルの質の向上と収益性向上の好循環」を実現する上で必要な環境配慮設計の効率的な導入や情報の提供を進め、また、そのフォローアップを継続的に実施していくべき。
- リユース・リビルド部品の利用について、更なるユーザー理解の促進に取り組むとともに、**部品の規格化**の取組等を通じて、それぞれの部品を比較・評価しやすい環境を創出し、ユーザーがリユース・リビルド部品を選択しやすい状況を構築していくべき。
- 3Rの推進・質の向上を進めるためには、ユーザーが使用済自動車を**質の高いリサイクルを確実に行う優良事業者**に優先的に引き渡していくことも重要である。近年、**一部の解体業者による講習制度**が設けられるなど、業界による優良事業者の育成等の自主的な取組が進められているところである。これらの取組を、今後自動車リサイクル制度において、どのように活用できるか、更なる検討が求められている。

以上の内容で意見交換されました。今回の論点整理は、自動車リサイクル制度の「あるべき姿」を意識した話し合いでした。議事録以外の参考資料でも大変興味あるデータがありますので是非ご覧ください。

[http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/sangyougijutsu/haiki\\_recycle/car\\_wg/040\\_haifu.html](http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/sangyougijutsu/haiki_recycle/car_wg/040_haifu.html)



# 規格化への取り組み、経産省委託事業として採択決定

ELV機構では、昨年度(平成26年度)より、経済産業省主催「自動車補修用リサイクル部品の規格策定に関する研究会」の中間報告を踏まえ、業界団体として自動車補修用リサイクル部品の規格策定に向けた取り組みのための検討を開始しました。

そして、本年度(平成27年度)4月に経済産業省が公募する「標準化委託事業」への応募を行い、「自動車補修用リサイクル部品のラベリング規格に関するJIS開発」というテーマで採択が決定しました。今後は、このテーマにもとづき、リユース部品部会(長谷川 利彦 部会長)が中心となって、事業を実施していきます。

## 事業概要

### ■現状の課題：

現状、自動車補修用リサイクル部品(以降、「リサイクル部品」とする)を供給する際に自動車ユーザーに提供される情報は共通化されておらず、供給業者と自動車ユーザーの間で生じる情報の食い違いなど、リサイクル部品の利用促進の妨げになっている可能性がある。

### ■本事業の内容：

前述のような現状をふまえて、本事業では、自動車ユーザーがリサイクル部品を利用する際に必要とする情報の共通化を行い、リサイクル部品の利用促進を図ることを目的とする。

具体的には、自動車ユーザーにとってわかりやすい情報の評価・表示方法を開発し、リサイクル部品に対する情報の構成・記載項目・記入要領等の標準化を検討する。

※ 部品の性能を評価するような規格ではなく、わかりやすい情報の表示方法(ラベリング)をJIS規格として定めるものである。

## 何のためにJIS規格を作るのか？

「この部品は、いつ、誰が、どんな車から回収して、どうやって作ったか」を分かりやすく自動車ユーザーに伝える方法を作る(=JIS規格)



JIS規格を満たしている部品は、販売業者や整備業者が余計な心配をすることなく、自動車ユーザーに推薦・提供できる



自動車ユーザーは、使用する部品がJIS規格を満たしていることにより、安心して整備した車に乗ることができる

## JIS規格を作ることによって期待できる効果

### ■効果1：

流通する全てのリサイクル部品が、JISの認証を取得することにより、自動車ユーザーがリサイクル部品を使用する機会・意欲が増し、幅広い普及が期待できる。

### ■効果2：

安全安心をベースに、各部品流通ネットワークの品質基準や保証制度をプラスすることにより、自動車ユーザーの利便性(低価格、高品質など)を競争力に更なる普及を目指すことができる。

# ブロック会議や地域団体総会、各地で開催

4月の後半から5月にかけて、全国各地でブロック会議や地域団体の総会などが開催されました。本部からも河村代表理事をはじめ、役員らがそれぞれの会議に出席しました。ブロック会議・地域団体総会の開催実績は、以下のとおりです。

ブロック会議 開催実績	地域団体総会 開催実績
<p><u>主な内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 平成26年度本部事業報告</li> <li>✓ 平成27年度本部事業計画（案）</li> <li>✓ 各地域団体報告</li> </ul> <p>……など</p>	
5月13日（水） 東北ブロック会議	4月18日（土） 大阪府組合総会
5月22日（金） 北海道ブロック会議 （北海道組合総会併催）	4月24日（金） 山口・広島県支部総会
5月24日（日） 沖縄ブロック会議 （沖縄県組合総会併催）	4月28日（火） 山形県組合総会
	5月15日（金） 宮城県支部総会
	5月16日（土） 岩手県組合総会 茨城県組合総会
	5月22日（金） 福島県組合総会 岡山県組合総会

## 平地ブロック長会議長より一言



平地 健 ブロック長会議長  
（東北ブロック・宮城県）

定期的な会議等の開催によって情報共有と課題解決を図ることは、大変重要です。

会員さん同士が顔を合わせる機会を増やし、「どんなブロック、地域にしたいのか？」を議論していただき、各ブロック、地域団体が活性化することを期待します。

## ELV機構の総会のお知らせ

「一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 平成27年度定期社員総会」  
開催日時 平成27年6月11日（木）／ 開催場所 TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター

- 定期社員総会 13:00～14:00（12:30～受付開始）
- 会員交流会 14:15～15:45（13:45～受付開始）
- 懇親会 16:00～18:00（15:30～受付開始）

## ■ 5月第3週(22日)の鉄スクラップ動向 ■

[ 提供 / 日刊市況通信社 ]



5月22日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	25,000 ~ 26,000	堅調
	南関東	25,000 ~ 26,000	堅調
名古屋		24,000 ~ 25,000	強含み様子見
関西	大阪	23,500 ~ 24,500	様子見
	姫路	23,000 ~ 23,500	様子見

### 米国の輸出ヤード買値が値上がり 東海岸・月初から20~35ドル上昇

米国・東海岸の輸出ディーラーのヤード買値が値上がりした。5月中旬以降は米国玉の大型船によるトルコ向けの新規輸出契約は聞かれないものの、欧州からの輸出相場が続伸し高止まりしていること、6月18日から始まるラマダンを前に、この先もしばらくはトルコミルからの引き合いが続くという見方などから、米国シッパーが鉄スクラップの在庫を確保するために集荷価格を引き上げる動きを取った。

ボストン、ニューヨーク、フィラデルフィアといった東海岸の主要地区では、輸出ディーラーの集荷価格はNo.1ヘビー(HMS)でみると安値で220ドル、中心価格帯は225~230ドルどころと、5月入り直後からは20~35ドル上昇している。一方、フィラデルフィアの鉄鋼メーカーはNo.1ヘビーの購入価格を230ドル前後としているところが多い。一般的にはメーカー向けのスクラップのほうが輸出ヤード向けよりも品質が高いとされているが、両者の価格差は縮まってきている。

### 【関東地区】電炉半数強が値上げし堅調様子見

関東地区では、20日の東京製鉄の全拠点値上げ改定から同週の週末までに、関東主要電炉16事業所のうち半数強の9事業所が値上げ対応を実施した。関東電炉のH2買値は各事業所とも1トあたり25,000円を上回り、堅調様子見の相場推移となっている。H2炉前実勢価格は25,000~5,500円中心、高値26,000円見当。22日時点のH2浜値は25,000円中心、一部高値あり。当面は堅調相場が続くとみられる。

### 【東海地区】メーカーH2実勢値は24,000~5,000円どころへ上伸

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、下旬入りまでに500円がたの上げが一巡した。同地区の市況の上昇は昨年12月3日以来約5カ月ぶり。東京製鉄は20日から田原工場の陸海上特級価格を25,000円とした。これを受け、他の主要電炉4社は20日から21日にかけて追随上げに動いた。H2炉前実勢価格は24,000~5,000円中心へ上伸。足元の需給関係に不安を抱く向きは少ないだけに、目先も輸出や東鉄を見守る形で気配は強含み様子見。

### 【関西地区】複数メーカーが在庫余力抱えなお様子見展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見横ばい。H2炉前実勢価格は23,500~4,500円。市中から湾岸への流出に加え、共同輸出船積み(5,000ト)も控えることで、電炉入荷は上積みを図りにくいとされるが、なおも大半が在庫余力を抱え、需要も上向く気配にないため、他地域の一度きりの値上がりの動きだけでは判断材料に乏しい展開といえそうだ。姫路地区も大きな動きは見られない。H2炉前実勢価格は23,000~3,500円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、5月22日午後時点のもの)

# 行事予定

## ■ 6月の主な予定

6月4日(木)

・ 第1回 三役会

6月11日(木)

・ 平成27年度定期社員総会

6月12日(金)

・ 第2回 リサイクル技術部会

6月16日(火)

・ 第3回 広報部会

6月17日(水)

・ 第1回 未来政策部会

6月19日(金)

・ 産構審・中環審 第41回 合同会議



## お知らせ

### ■ 会員数(2015年5月時点)

総数 598社 / 会員 573社、賛助会員 25社

### ■ 新規ご入会者のご紹介(2015年5月ご入会)



沖縄県沖縄市

「ミツル商会」様

### ■ 自動車リサイクル士合格実績(2015年5月時点)

資格の種類	平成25年度	平成26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	37名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破碎工程)	15名	59名
自動車リサイクル管理士	626名	194名

## 編集後記

今時の自動車はEV車、FCV車など新しい燃料の自動車や、またアイサイトなどに代表されるように、自動車が危険を予測して自動的にブレーキが作動し衝突を回避するシステムが各メーカーよりこぞって導入されてきています。そう遠くない将来に自動運転機能が付いた自動車が登場するのは時間の問題でしょう。環境に優しく、しかもより安全な自動車が社会を変えようとしています。まさしくいま自動車の産業革命が始まっているといっても良いのではないのでしょうか。▲こうした時代の変化を鑑みつつ、自動車リサイクル業界もこの流れに追随してゆかなければならないところですが、その方向性を見いだすことは極めて難題です。▲河村代表理事率いる日本ELVリサイクル機構平成27年度定期社員総会は6月11日に開催されます。次世代自動車の登場もさることながら、目の前の諸問題、例えば使用済自動車の減少など、事業を運営する上でも厳しい課題が山積するこの業界を、果たしてどのような方針で牽引してゆくのか注目したいところです。

(広報部会 部会長 永田 則男)